

伝統芸能伝承館 森舞台

この伝統芸能伝承館は「森舞台」として知られています。1996 年に、地元の能楽スタイルである「登米能」のための劇場として建設されました。登米能は、アマチュアの俳優によって演じられる能の形式です。国際的に著名な建築家、隈研吾がこの複合施設を設計し、能舞台と周囲の建物を手掛けました。周囲の森林の景観に注目を集めると同時に、俳優と観客との心地良い空間を作り出すような設計が施されています。この複合施設は、1997 年に日本建築学会からデザインの優秀さを称えて賞を受けました。

能は 14 世紀に発展し、その当時は屋外でのみ上演されていました。しかし、現在の能舞台は多くが大型の建物内に設けられており、舞台の屋根や他のデザイン要素が、芸術形式の屋外起源を象徴的に示すだけです。隈はこの傾向を意図的に逆転させ、舞台を何百年も続く森の端に設置しました。この自然の環境は、季節ごとに異なる舞台体験を提供します。春には大きなしだれ桜の花びらが演者の前に散り、夏にはセミの鳴き声が能の謡の音と交わり、秋には満月とかがり火の灯りが夜の公演を照らします。

隈は、伝統的な能舞台の建築を尊重しながらも革新的なデザイン要素を取り入れました。柱は青森県のヒバ材で作られており、屋根は登米で採掘されたスレートで覆われています。舞台の下にある大きな「水甕」の陶器の壺は通常隠されていますが、ここでは完全に観客に見える形で配置されています。これらは俳優の足拍子（床を踏む音）を増幅させる共鳴装置として

の役割を果たし、同時に建築的な構成の視覚的に印象的な要素ともなっています。また、能舞台の周囲に通常使われる白砂の代わりに黒い砕石が敷かれており、これが森の地面の暗さを呼び起します。

舞台の背面板には、日本画家の千住博による古い松の木を描いた絵があり、その枝が森の中に伸びていくように構成されています。舞台の側面には、コバルトブルーで描かれた竹が若さ

と新鮮さを象徴しています。舞台の横にあるオープンエアのテラス席と、舞台前にあるガラス張りの畳敷きの観覧ホールは、現代的な要素を加えています。

森舞台は公演がないときには一般公開され、建築を鑑賞するために訪れる人々や、結婚式やコスプレの写真撮影を行う人々に利用されています（事前申請が必要です）。1階には、能に関連する資料や衣装、面などを展示した展示室があります。森舞台は、登米能の地域演劇の伝統を支えるだけでなく、外部のプロの能の公演も上演しています。